# 令和 4 年度　東京都内湾水生生物調査　12 月稚魚調査　速報

●実施状況

令和 4 年 12 月 7 日に稚魚調査を実施した。天気は晴で、気温は 12.8～15.8℃、調査時は全ての調査地点において無風であった。調査当日は大潮で、干潮は 10 時 17 分、満潮は 15 時 50 分であった（気象庁のデータ）。

いずれの地点においても赤潮は発生していなかった。

| | 城南大橋 | お台場海浜公園 | 葛西人工渚 |
|---|---|---|---|
| 作業時刻 | 9:40-10:35 | 11:03-12:23 | 12:55-14:20 |
| 水温(℃) | 13.8 | 14.7 | 16.8 |
| 塩分(-) | 19.5 | 24.8 | 18.0 |
| 透視度(cm) | 95.5 | 85.5 | 49.0 |
| DO(mg/L) | 6.5 | 5.2 | 7.5 |
| DO飽和度(%) | 70.9 | 60.1 | 85.3 |
| 波浪(m) | 0.0 | 0.1 | 0.1 |
| pH(-) | 7.2 | 7.5 | 7.6 |
| 水の臭気 | 無臭 | 弱魚臭 | 弱魚臭 |
| 備考 | 調査時、干潟は干出していなかった。 | | |

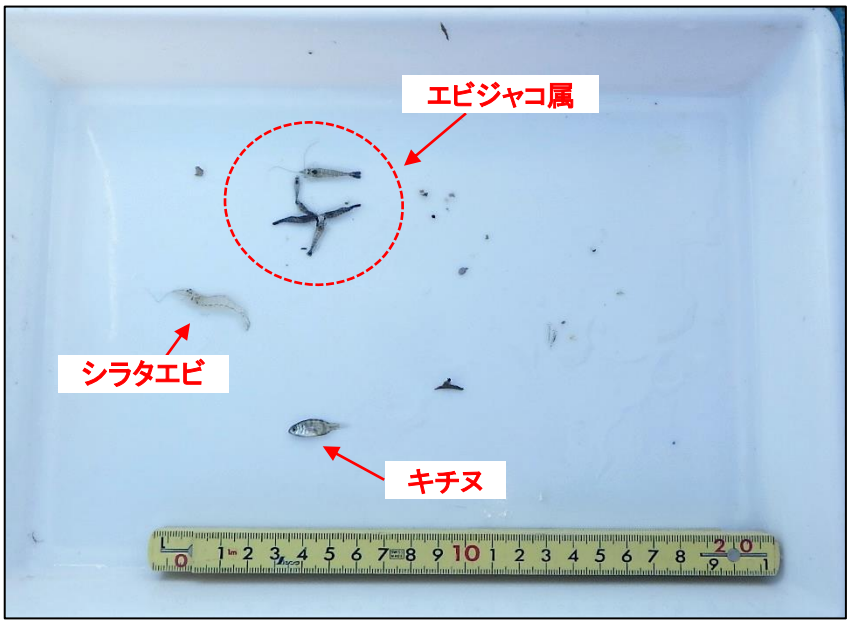
●主な出現種等　（速報のため、種名等は未確定）

| 主な出現種等 | 城南大橋 | お台場海浜公園 | 葛西人工渚 |
|---|---|---|---|
| 魚種（多い順[注]） | キチヌ(r) | ビリンゴ(m) | ビリンゴ(c) |
| | | アユ(c) | アシシロハゼ(+) |
| | | キチヌ(r) | エドハゼ(+) |
| | | | キチヌ(r) |
| | | | クルメサヨリ(r) |
| 魚類以外 | ニホンイサザアミ(+) | シラタエビ(c) | ニホンイサザアミ(G) |
| | エビジャコ属(+) | イソコツブムシ属(r) | シラタエビ(m) |
| | シラタエビ(r) | | クロイサザアミ(c) |
| 備考 | | | 他にクーマ属、エビジャコ属等が採集された。 |

注）表中の（　）内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+:5～20 個体未満、r:5 個体未満

# 城南大橋　採取試料



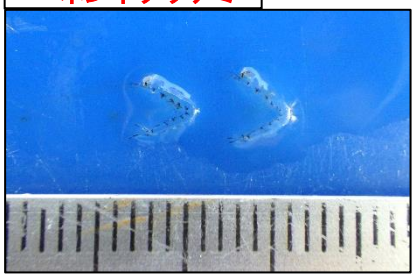
城南大橋西詰めにある干潟。北側には東京港野鳥公園がある。調査時、干潟は干出していなかった。

## ●主な出現種等　※写真のスケール1目盛:1mm

**キチヌ**

沿岸の岩礁域や内湾の砂泥底等に生息する。成魚はクロダイに似るが、産卵期はキチヌが 10～1 月、クロダイが 3～6 月であり、干潟域での出現時期が異なる。

**ニホンイサザアミ**



汽水域に生息するアミの仲間（エビの仲間ではない）。体長 10mm 程になる。河口付近で春に大量発生し、魚類等の重要な餌となっている。

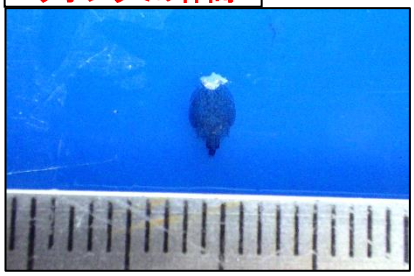
**エビジャコ属**

稚魚等を捕食する小型の甲殻類。内湾の砂泥底に生息し、普段は砂にごく浅く潜って隠れている。環境の変化に敏感に反応して体色を変化させる。

**シラタエビ**

青い触角が特徴のエビ。額角の基部が盛り上がることで、スジエビ類と区別ができる。汽水域を主な生息場とし、干潟にもよく出現する。成熟した個体では体側に青色斑が現れることが多い。

**ウオジラミの仲間**



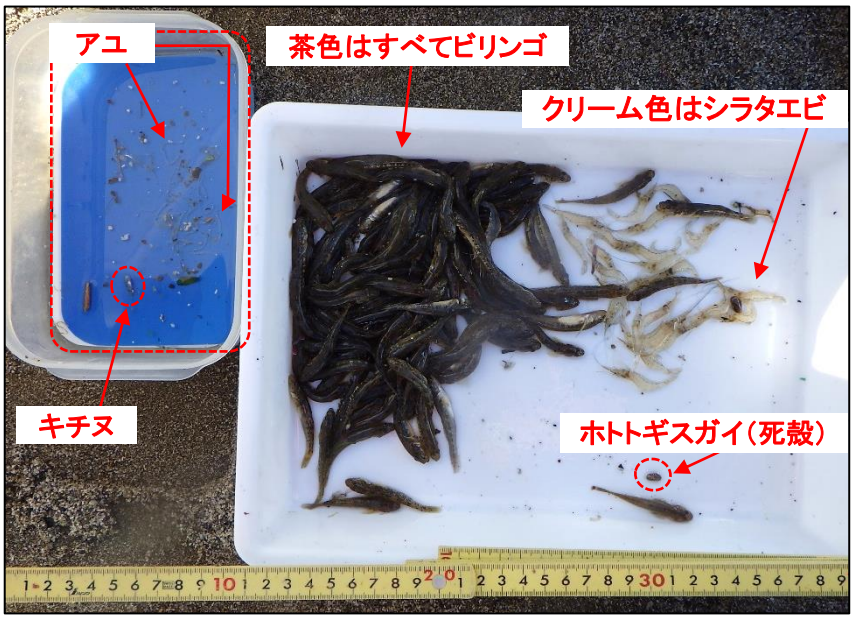
魚に寄生するカイアシ類。魚の体表に取り付き、血液を吸って栄養とする。種によって特定の魚種にのみ寄生するものと、様々な魚種に寄生するものがあるが、ヒトには寄生しない。

【調査対象外】

**※今年度 5 月調査時の同地点**

地点や潮が同じでも、季節によって潮位に差がみられる。いずれも大潮で調査時間中に最も潮が引いていた 5 月と今回を比べると、90 ㎝近く潮位に開きがあった。また、冬は夜間の方が潮の引きが大きい。

# お台場海浜公園　採取試料



水際数 m で急に深くなる人工の渚。レインボーブリッジのたもとにある。

●主な出現種等　※写真のスケール1目盛：1mm

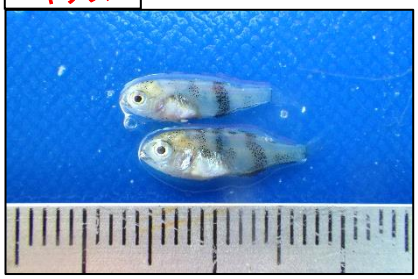
ビリンゴ

マハゼと並ぶ東京湾を代表するハゼの仲間。淡水の影響を受ける河口付近の干潟に多い。早春にアナジャコ等の甲殻類の巣に産卵し、稚魚は成長するにつれて河川上流側に移動する。

アユ

夏から秋にかけて河川中流の砂礫底に産卵し、10 日～2 週間後に孵化する。仔魚は干潟周辺で 3～4cm になるまで滞在し、その後、河川を遡上する。海で生活する間は体の透明感が強い。

キチヌ

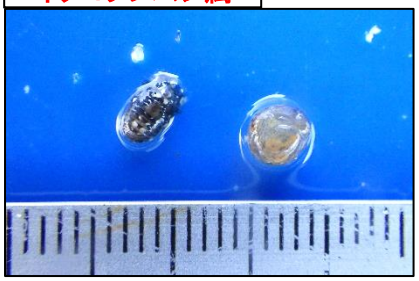


※解説は城南大橋を参照。

シラタエビ

※解説は城南大橋を参照。

イソコツブムシ属

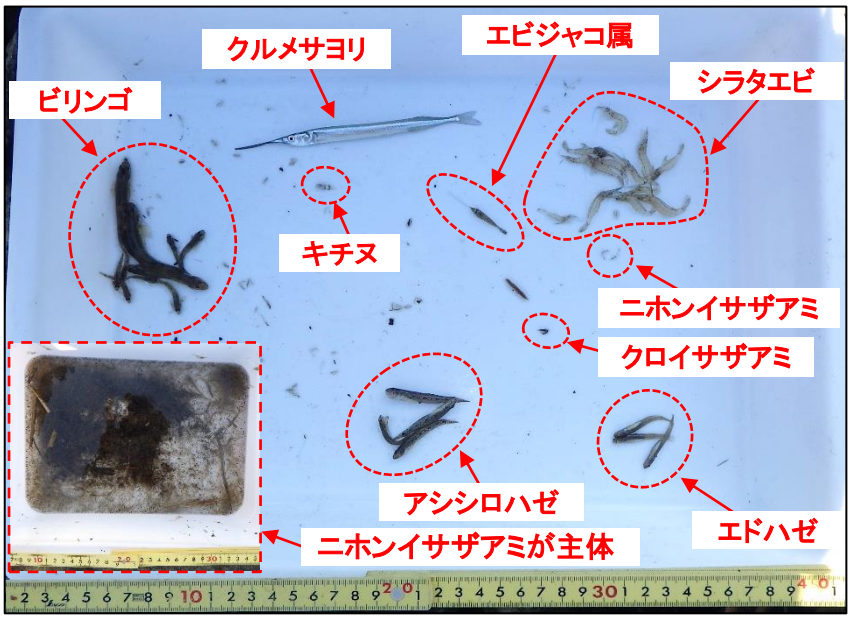


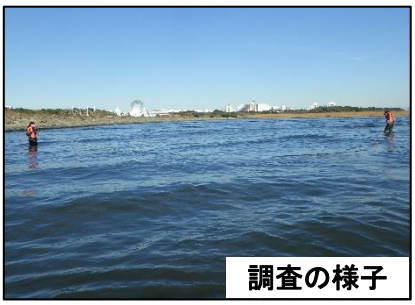
ダンゴムシやオオグソクムシに近い甲殻類の仲間。体長は 5～8mm で、石の下や海藻の中などに生息する。危険を感じると体を丸めて球状になる。

ホトトギスガイ（死殻）

砂泥底に生息するムラサキイガイの仲間。富栄養な海域では互いに足糸(そくし)を絡ませて集団で泥の表面を覆い、マット状になることが多い。

# 葛西人工渚　採取試料






東京湾奥にある広大な人工干潟。野鳥等保護区域のため、一般の立ち入りが禁止されている。

## ●主な出現種等　※写真のスケール1目盛:1mm

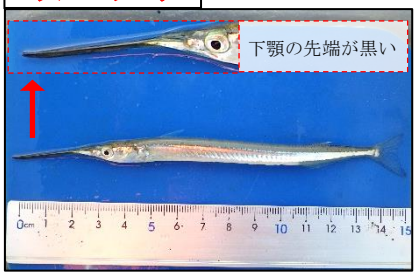
### アシシロハゼ

鱗が粗く、体側にゴマ模様がある。成熟した個体の体側には白い横縞が現れる。成魚は春の干潟に多く出現し、マハゼの稚魚等を食べる。初夏～秋にかけて、河口付近の石や貝殻の下面に産卵する。

### エドハゼ

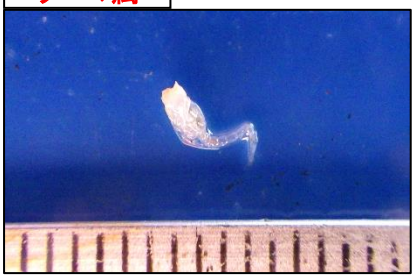
一生を干潟域で生活する小型のハゼ。成魚はアナジャコ等の巣穴を隠れ家とするほか早春には産卵場所として利用している。そのため、成魚になると網での採集が難しくなる。

### クルメサヨリ



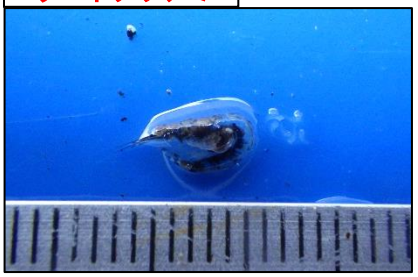

細長い体に短い上顎と長い下顎を持つ。下顎の先が黒いのが本種の特徴。河口域や内湾に生息し、春～夏に粘着性のある糸で水生植物に絡ませるように産卵する。

### クーマ属



長い尾節が特徴の小型甲殻類で、体長は7mm程度。日中は砂泥中に潜っているが、夜は海面近くに浮上して餌をとる。

### クロイサザアミ



ニホンイサザアミ同様、汽水域に生息するアミの仲間。体長 15mm程になる。腹部に黒色斑があり、ニホンイサザアミに比べ黒っぽい体色をしている。

### ムロミスナウミナナフシ（脱皮殻）

体長 2cm 程になる、フナムシに近い仲間。細長い円筒状の体をしており、白地に褐色の斑紋がある。干潟の表層部に巣穴を掘って生活する。本地点では脱皮殻が採集された。

【調査対象外】